

## 「子どもの学び」市民フォーラム in 東京（2020-08-20 開催） 講義（講師：中園長新）へのご質問等ならびに講師からの回答

2022-08-22 作成

文責：中園長新（麗澤大学）

このたびは、フォーラムにおける講義（動画配信）にご参加いただきありがとうございます。オンラインフォームにお寄せいただきましたご質問等を紹介し、回答いたします。

なお、ご質問等は内容に応じて分割したり、一部表現を改めたりしております。

いただいたご質問等は「●」に続けてゴシック体、講師からの回答は「A.」に続けて明朝体で記載しています。

ここに掲載したもの以外にも、ご質問等がございましたら、どんな内容でもいつでもお気軽にお寄せください。個別に対応いたします。ただし、オンラインフォームは閉じていますので、メールでご連絡ください。

中園 nnakazon@reitaku-u.ac.jp

### ■ご質問

●学校図書館が情報教育の文脈から欠落していることを、教育委員会などは把握しているのでしょうか？中園先生のような立場の方から訴えてもらうことは可能でしょうか？

A. 直接調査したわけではありませんが、教育委員会を含めた教育行政においても、学校図書館は情報教育の文脈から欠落していると感じます。しかし、すべての自治体・関係者が意識していないわけではなく、学校図書館を含めた ICT 以外の「情報」に対する意識を持っている方もたくさんいらっしゃいます。

私は一介の研究者にすぎず、残念ながら行政とのつながりも持っていませんので、直接訴えることはできないかもしれません。しかし、学会発表等の様々な機会でも研究者として発表を行い、啓蒙していくことはできるかと思えます。学校や図書館に関わるみなさまも、まずは同僚とのおしゃべりでかまいませんので、学校図書館と情報教育の関わりをぜひ広めていただければ幸いです。

余談ですが、今回の講義が動画配信となった理由は私が広島での国際会議に参加していたからなのですが、そこで私が発表したもののひとつは「情報教育の教材として学校図書館を活用する」というものでした。研究者として、こうした研究を継続し、今後も各所で発表してまいります。

●人的資源からのアプローチで、司書教諭の負担軽減に比べて学校司書の活用が弱いように感じました。やはり授業に関わるためには司書教諭の働きが不可欠と思いますが、配置された学校によっては司書教諭が機能しているかどうかは運次第で、機能していても忙しすぎたり、図書館担当が司書教諭ではなかったりする場合もあります。学校司書としても、それを補うためにできることはないかと考えます。何かあるでしょうか？

A. 法的に明確に規定されている司書教諭と異なり、学校司書は（学校図書館法に規定はされましたが）処遇や業務内容に多様性があることを特徴としています。各自治体・各学校に適した学校司書配置のためにも、こうした多様性は必要だと思っています。一方で、多様性は研究者にとって、包括的な指摘をしづらいということでもあります。そのため私の講義では、学校司書の活用に十分に踏み込めませんでした。これは私の力不足によるもので、申し訳ありません。

司書教諭の機能性はご指摘の通りで、自治体や学校、あるいは司書教諭個人によっても大きく異なっています。失礼な言い方で恐縮ですが、やる気のない自治体・学校や、やる気のない司書教諭も残念ながら一定数存在しているようです。

学校司書は非常勤だったりして学校経営に関われないかもしれませんが、まずは司書教諭や図書館担当教員といった、話をしやすい人たちに、図書館の素晴らしさを啓蒙していくとよいのではないかと思います。そういった学校の場合、学校司書はおそらく、校内で最も図書館に詳しく、最も図書館を愛している人だと思います。その熱量を積極的にアピールして、学校図書館の良さや重要性を広めていくのはいかがでしょうか。単に「楽しく図書館のおしごとをする」だけでも効果的だと思います。

## ■ご感想

●大変興味深いお話を楽しく聞かせていただきましたありがとうございます。本も読んでみたいと思いました。

A. ありがとうございます！ 本では、今回お話しできなかった細かい内容にも踏み込んでいますので、お読みいただければ幸いです。

●「学びの環境をデザインする」のシリーズはすべて購入させていただきました。今までにないシリーズで本当に嬉しく思います。本校の研究主任が興味をもってくれています。2学期は、どんどん失敗して、伝えていこうと勇気をいただきました。ありがとうございます。

A. ご購入ありがとうございます。私の担当箇所以外も大変おもしろい内容ばかりですので、お楽しみいただけますと幸いです。

教育現場では失敗を恐れることも当然あると思いますが、子どもたちが不幸にならない、取り返しがつくことであれば、どんどんチャレンジしたほうがいいのではと思っています。先生方自身が殻に閉じこもってしまうのではなく、新しい教育を目指して前向きに取り組んでいる姿は、子どもたちにとってもよい効果を与えるものと思います。

以上